

平成23年3月7日(月)

国土交通省 関東地方整備局
関東運輸局

記者発表資料

実入り45フィート国際海上コンテナ輸送の実証実験を実施しました

実際の輸入貨物を45ft コンテナを使用し輸送する首都圏初の試み

(京浜港物流高度化推進協議会の取り組み)

平成23年3月3日(木)、京浜港物流高度化推進協議会は、45ft コンテナの国内輸送の実現に向け、首都圏初の試みとして、実際の輸入貨物を積載した45ftコンテナをマルチトレーラにて輸送する実証実験を行いました。当該実証実験では、45ftコンテナ輸送における運転操作性等を確認するとともに輸送効率性の検証を行うことを目的としています。(株)ナイキジャパンがベトナムで日本向けに生産しているシューズ等を積載した2本の45ftコンテナを、横浜港本牧D4コンテナターミナルから千葉県富里市に立地するナイキジャパンカスタマーサービスセンター(以下、ナイキCSC)間へ輸送しました。実証実験の概要は別紙のとおりです。結果としては、公道やナイキCSCでの運転操作性に支障が無く、また、積載されている貨物に荷崩れ等も無い等、特段の問題は有りませんでした。



公道走行状況の写真



ナイキCSCでの着車状況の写真



今回輸入した貨物の一例

<実験協力> (株)ナイキジャパン、APL、(社)神奈川県トラック協会海上コンテナ部会、山九(株)、(株)住友倉庫

【京浜港物流高度化推進協議会】

関東地方整備局及び関東運輸局では、官民の京浜港の関係者により構成される本協議会を設置し、官民が一丸となり、協働で、同港の国際競争力強化に向けたあらゆる課題に取り組んでいます。本協議会では「京浜港物流高度化計画」に基づき、実証実験等を行い、外貨貨物物流の高度化に向けた取り組みを進めています。本協議会では、45ftコンテナの国内輸送の実現に向け、引き続き取り組んでいきます。

※国際海陸一貫運送コンテナの自動車運送の安全確保に関する法律案に準じ、コンテナ情報を貨物自動車運送事業者に伝達した上で、輸送を実施しました。

※マルチトレーラとは、トレーラが伸縮することにより様々なサイズのコンテナを積載し輸送することができるトレーラです。我が国には45ftコンテナに適合するトレーラが存在しないため、本実証実験では海外製のマルチトレーラを使用しました。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ、物流専門紙

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室

室長 まさおか たかし 正岡 孝、 課長補佐 のぐち たかし 野口 孝俊

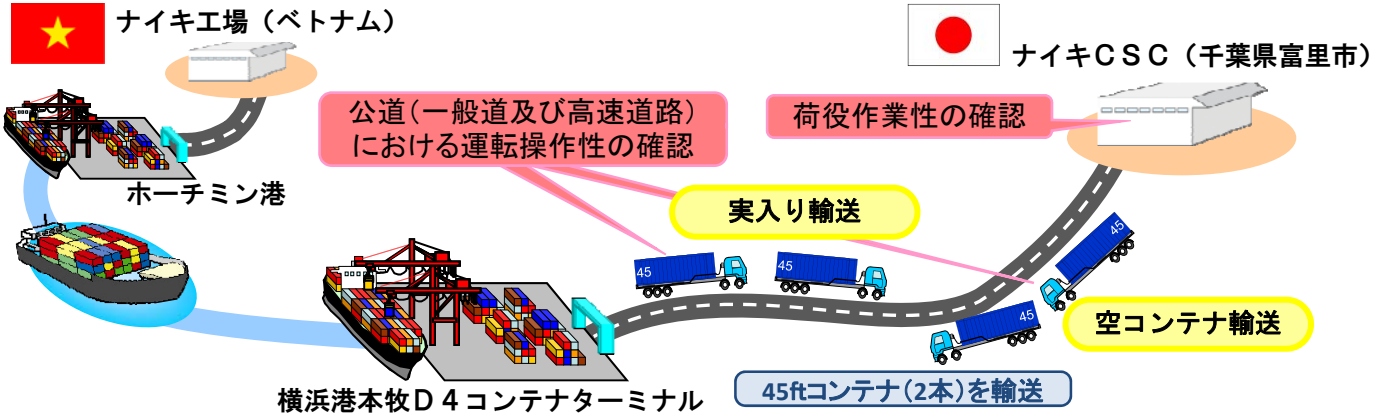
TEL:045-211-7437、FAX:045-211-0204

実入り45フィート国際海上コンテナ輸送の実証実験について

別紙

(1) 目的

45ft国際海上コンテナを使用した実運送において、公道でのトレーラ輸送による運転操作性と物流センターでの荷役における作業性等の検証を行うため、横浜港本牧D4コンテナターミナル～ナイキCSC間において、実証実験を行いました。



(2) 実験概要

- 実験日時 : 平成23年3月3日(木)
- 協力事業者 : (株)ナイキジャパン、APL、(社)神奈川県トラック協会海上コンテナ部会、山九(株)、(株)住友倉庫
- 実験場所 : 横浜港本牧ふ頭D-4バース、ナイキジャパンカスタマーサービスセンター及び同施設間の一般道(往路:実入り)・高速道路(復路:空コンテナ)
- 検証内容 : 45ftコンテナの活用による有効性及びトレーラ輸送における運転操作性等の確認
- 使用トレーラ : SCHMITZ社製マルチトレーラ、BURG社製マルチトレーラ

実証実験走行ルート



(3) 検証項目

検証項目	内容
公道での運転操作性	・公道における右左折等の運転操作性の確認 ・キャブバック間隔の安全性の確認
荷主倉庫での運転操作性及び荷役作業性	・トラックバース部での切り回し操作の確認 ・トラックバース部での荷役作業性の確認
45ftコンテナ活用による有効性	・輸送回数削減による定量的効果の試算(総輸送時間の削減、CO2排出量の削減)

